

ORCHESTRA 2026 PROJECT

境界を越えて ～ オーケストラ音楽の未来を拓く

今堀拓也

Takuya IMAHORI



© Jun'ichi Ishizuka

玉川大学文学部芸術学科卒業、パリ・エコール・ノルマル音楽院修了、フランス国立音響音楽研究所 IRCAM 作曲研修課程修了、スイス・ジュネーヴ州立高等音楽院修士課程修了。2017 年イタリア国立ローマ・アカデミア・サンタチェーリア研究科課程を満点賞賛付き最高位評価で修了。ならびにミラノ市立クラウディオ・アバド音楽学校指揮予備科修了。土居克行、三界正実、平義久、ジャン＝リュック・エルヴェ、フィリップ・ルルー、ミカエル・ジャレル、ルイス・ナオン、イヴァン・フェデーレに作曲を師事、ローラン・ゲイ、杉山洋一に指揮を師事。2001 年ガウデアムス賞(オランダ)受賞。ドナウエッシンゲン音楽祭(ドイツ)、ラジオフランス・プレザンス音楽祭などで作品が演奏。2018 年 4 月より 6 月までオーストリア共和国文化庁ウィーン芸術レジデンス招聘作曲家に選出。2019 年バーゼル作曲コンクール(スイス)第 3 位受賞。同年、イタリア共和国マッタレラ大統領よりゴッフレッド・ペトラッシ 賞 奨学金を受賞。2020 年、KLANG! 国際作曲コンクール(フランス)で第 1 位およびモンペリエ国立オペラ管弦楽団特別賞を受賞。2024 年 3 月より 5 月までブラジル・イタパリカ島の芸術レジデンス・サカタールに選出され滞在。IRCAM のアルゴリズム作曲プログラム OpenMusic を援用した作曲を近年特に多く手がけている。<https://takuyaimahori.mystrikingly.com>

郭元

GUO Yuan



© Bonsai

東京藝術大学博士課程作曲専攻修了、四川音乐学院作曲系主任を経て、現在、中国四川音乐学院教授。作品はオーケストラ曲、室内楽曲、合唱曲、独奏曲、民族楽器による作品など多岐にわたる。2004 年にポーランドの「Witold Lutosławski 賞」国際作曲コンクール入賞、2014 年にポーランドの「第 2 回 Krzysztof Penderecki 国際作曲コンクール」入賞、第九回中国音楽「金钟賞」優秀作品賞、2017 年に中国香港中乐团「中楽無疆界・国際作曲大会」最優秀編曲賞を受賞するなど、国際的な作曲コンクールで受賞多数。また、作品は 2013 年(スロバキア・ウィーン)、2017 年(カナダ・バンクーバー)、2020 年(ニュージーランド)、2025 年(ポルトガル)の国際現代音楽協会(ISCM)主催「World New Music Days」 「世界音楽の日々」音楽祭に選ばれ演奏された。中国の人民音楽出版社から「郭元交響楽作品、室内管弦楽曲『三壺』、大型管弦楽曲『水中に映る音』」を出版、マザーアースからサクソフォン四重奏のための『聖なる鳥を創る眼』、6 人の打楽器奏者のための『靄』、13 弦箏とピアノのための『滲Ⅲ』、9 人の奏者のための『滲Ⅲ』、吹奏楽のための『三つのバランス』などを出版。また、コジマ録音から「郭元室内楽作品集」CD が出ている。音楽表現としては、音の動きを重視し、一つの音響が生じる前後及び一瞬の爆発と消滅の状態を追求、また、線と音色を用いて作品を構築する、より簡素な表現方法を追究している。

嵯場富美子

Tomiko KOHIBA



© Ayane Shindo

東京藝術大学作曲科卒業、同大学院修了。国内外の団体から室内楽、合唱曲、管弦楽曲等の委嘱を受け、作品は国内だけでなくヨーロッパ、米国等で演奏されている。広島三部作(「広島レクイエム」「未風化の 7 つの横顔」「摂氏 4000 度からの未来」)のほか、東日本大震災以降「海」を題材にした一連の作品を Music from Japan、日本作編曲家協会他からの委嘱で作曲し、「わだつみの波～管弦楽のために」などがある。現代日本の作曲家シリーズとして fontec からオーケストラ作品集がリリースされた。ここ数年は、「Fragments シリーズで自由な楽器の組み合わせでの新たな響きを模索している。近作として、「フラグメンツⅤ～ファゴットとチェロのために」('23) 「天籟譜Ⅲ～尺八三本のために」('23 日本作曲家協議会委嘱)、歌曲〈ま〉〈み〉〈む〉('25 静岡音楽館 AOI 委嘱) 「同声合唱のための『僕の好きな人』」('25 東城コール・エコー委嘱) 「悲しみの 8 つの断章」('25 アンサンブル金沢委嘱) 他がある。別宮賞、芥川作曲賞、中国文化賞受賞。楽譜は全音楽譜出版、音楽之友社、カワイ出版等から出版されている。現在、東京音楽大学客員教授。日本現代音楽協会理事、日本作曲家協議会理事、日本ソルフェージュ研究協議会副会長、NHK 東京児童合唱団運営委員、全日本ピアノ指導者協会評議員、他。

山内雅弘

Masahiro YAMAUCHI



© Jun'ichi Ishizuka

1960 年仙台市生まれ。1986 年東京藝術大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。クルーズ国際ピアノ会議作曲コンクール第 1 位(フランス)、シルクロード管弦楽作曲コンクール入賞、日本交響楽振興財団作曲賞入選(第 17 回、第 23 回)、文化庁舞台芸術創作奨励賞(合唱組曲)。第 16 回朝日作曲賞を吹奏楽、合唱曲の両部門で同時受賞。受賞作品は 2006 年度の全日本吹奏楽コンクール、全日本合唱コンクールの課題曲となる。第 2 回東京佼成ウインドオーケストラ作曲コンクール第 1 位、第 21 回芥川作曲賞を受賞。2021 年 6 月に初の作曲個展を東京文化会館小ホールにて開催。第 6 回東京国際合唱コンクール 2024(学校合唱部部門/ユース部門)の課題曲を作曲。作曲を本間雅夫、北村昭、八村義夫、南弘明、松村禎三、黛敏郎の各氏に師事。現在、東京学芸大学特任教授、東京藝術大学作曲科非常勤講師、日本現代音楽協会理事、日本作曲家協議会副会長、オーケストラ・プロジェクト代表。【主要作品】架空の伝説のための前奏曲、宙の形象～ピアノとオーケストラのための、管弦楽のための協奏曲、主題の無いパッサカリア～オーケストラのための、SPANDA ユーヴィブラフォンとオーケストラのための、女声合唱組曲「十四行のうた」(全音楽譜出版社)、女声合唱組曲「天使のいろいろ」(カワイ出版)、「合言葉」(教育芸術社) 2014 年 9 月にはオーケストラ作品集 CD をリリース (ALCD-99) <http://masahiro-official.jimdo.com> <https://x.com/compMY>

大谷康子 Yasuko OHTANI (ヴァイオリン)

日本を代表するヴァイオリニスト。華のあるステージ、深く温かい演奏で聴衆に感動と喜びを届けており「歌うヴァイオリン」と評される。東京藝術大学・同大学院博士課程修了。在学中よりソロ活動を始め、リサイタルはもとより N 響、モスクワ・フィル、スロヴァキア・フィルなど国内外の著名オーケストラと多数共演。デビュー 50 周年の 2025 年 1 月には、サントリーホール大ホールにて「世界平和」をテーマに、演奏会を開催し、満員の聴衆を魅了した。文化庁「芸術家大賞」受賞。著書に「ヴァイオリニスト 今日も走る!」(KADOKAWA) CD 多数。東京音楽大学客員教授。元東京芸術大学客員教授。(公財)練馬区文化振興協会理事長。川崎市文化大使。高知県観光大使。(公財)日本交響楽振興財団理事。(公社)日本演奏連盟常任理事。放送 11 年の BS テレ東(毎週土曜日朝 8 時)「おながく交差点」春風亭小朝と司会・演奏を務め、多方面で活躍している。



© Yukisuke Fushimi

會田瑞樹 Mizuki AITA (打楽器・作曲)

「音楽の可能性を拡げ続ける情熱の人」(野本洋介氏/バンドジャーナル 2025 年 12 月号) 會田瑞樹は 2010 年のデビュー以来、常に多角的に音楽を見つめ、行動に移している。打楽器、とりわけヴィブラフォンのためのレパートリーの拡大を求め多くの作曲家との協働を通じ、300 作品以上の初演を通じ音楽の未来を見つめている。作曲家としても打楽器作品のみならず、管弦楽、室内楽、歌曲と多岐にわたる創作活動を展開。演奏家の視座を持った「見通しの良い音楽」(北爪道夫氏)と評されるなど、その活動範囲はとどまることなく、近年は教育の面においてもその大胆な発想を活かした行動的な指導に定評がある。オーケストラプロジェクトにはソリストとして 2017、2018、2022 年に出演し、今回、歴代ソリスト史上最多となる 4 度目のソリスト出演となる。<https://mizukiaita.tabigeinin.com/>



© Shoichi Yabuta